

若者協同実践のゆくえ

# 「若者支援」はビジネスか？

学習支援・就労支援・ひきこもり支援の取り組みから考える ?



## 第2回 JYC フォーラム 研究大会

### 趣旨

「ないならつくる」で始まった若者支援の取り組み。その意義が社会的にも共有されるようになり、各種公的制度の枠組みに乗るようになって、はや10年以上の月日が流れています。そんな若者支援が今、過渡期に差しかかってきています。事業委託をめぐる団体間の競争や、「成果／数値評価」に追われる現場・行政の実態、はては「ビジネスチャンス」として触手を広げつつある貧困ビジネス業者など。そのような現状に対し、理論や政治、資金繰りなどさまざまなアプローチから対抗の方向性を探る動きが進みつつありますが、JYC フォーラムではあくまで「現場」にこだわり、実践に即した対抗と今後の展望を考え実施していきたいと思っています。今回の研究大会では、自分たちの実践を見つめ直しながら、そこにある課題と展望を皆で探っていきます。とりわけ、「サービス提供／受益者／顧客満足」等の担い手と受け手を分断していく構図を超えて「ともにつくる」という実践性をどのように担保していけるのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

若者支援の行く末に関心をもつ実践者も研究者も、互いにフラットな立場で議論・検討し合うなかから、明日への希望を見出していければと思っていますので、みなさんぜひ一緒にしましょう。

### 分科会①—学習支援

子どもの貧困に対する学習支援が広がり、公的事業として取り組まれるようになってはや5年が経っています。実施の状況は地域によってかなり差がありますが、一部には「学力向上」に特化した活動を展開しているところもあり、活動内容においてもかなりばらつきが出てきています。学習支援の活動はどこから始まり、どこへ向かっていくのか、皆で考えたいと思います。

### 分科会②—就労支援

公的若者支援のスタートは、不安定就労・失業問題からでした。それから15年の月日が流れていますが、いまだに「就職できたかどうか」という部分での成果ばかりが問われ、若者たちを追い立てるような支援も横行しがちです。しかし現場の実態としては、「就職できたかどうか」というよりも、「働くことを通じた若者の育ち」という部分こそが支援の要であり、それを支える企業・職場の発掘・整備や、自分たちなりの仕事場づくりの活動が取り組まれてきました。そんな就労支援の今後の方向性について、考えてみたいと思います。

### 分科会③—ひきこもり支援

若者支援と「ビジネス」の結びつきの最も極端なケースは、引き出し屋などの「ひきこもりビジネス」ではないでしょうか？ 本人だけでなく、家族もろとも社会から孤立してしまい、追い詰められてしまった家族の弱みに付け込んでくる自称「支援団体」。本人の意向を無視して強要されるという人権否定の活動でありつつも、それが「本人・家族のため」という「善意」の名の下に行なわれてしまうようなこともあります。こうした活動の横行を实践ベースでどのように防ぎ、抑え込んでいくことができるのか、皆で知恵を出し合ってみてみたいと思います。

2018 7.21 土

14:00-17:30

@ ワークスコープ 8F 会議室

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-44-3 池袋 ISP タビル  
池袋駅東口徒歩 5 分ほど

### 基調報告

#### 市場化・社会化をめぐる 若者支援現場が置かれている状況

報告者

津富 宏 さん

静岡県立大学 / 青少年就労支援ネットワーク静岡

### 分科会

#### ① 学習支援

中野 謙作 さん

高根沢町ひよこの家 / 栃木県若年者支援機構

#### ② 就労支援

西岡 正次 さん

A' ワーク創造館

#### ③ ひきこもり支援

森下 徹 さん

グローバル・シブスこうべ

参加費 1,000 円  
資料代として

### 参加申込み方法

事前にメール申込をお願いします。件名を「JYC 研究大会参加申込」とし本文に氏名、よみがな、所属を明記のうえ JYC 事務局宛 (info@jycforum.org) までお送りください。